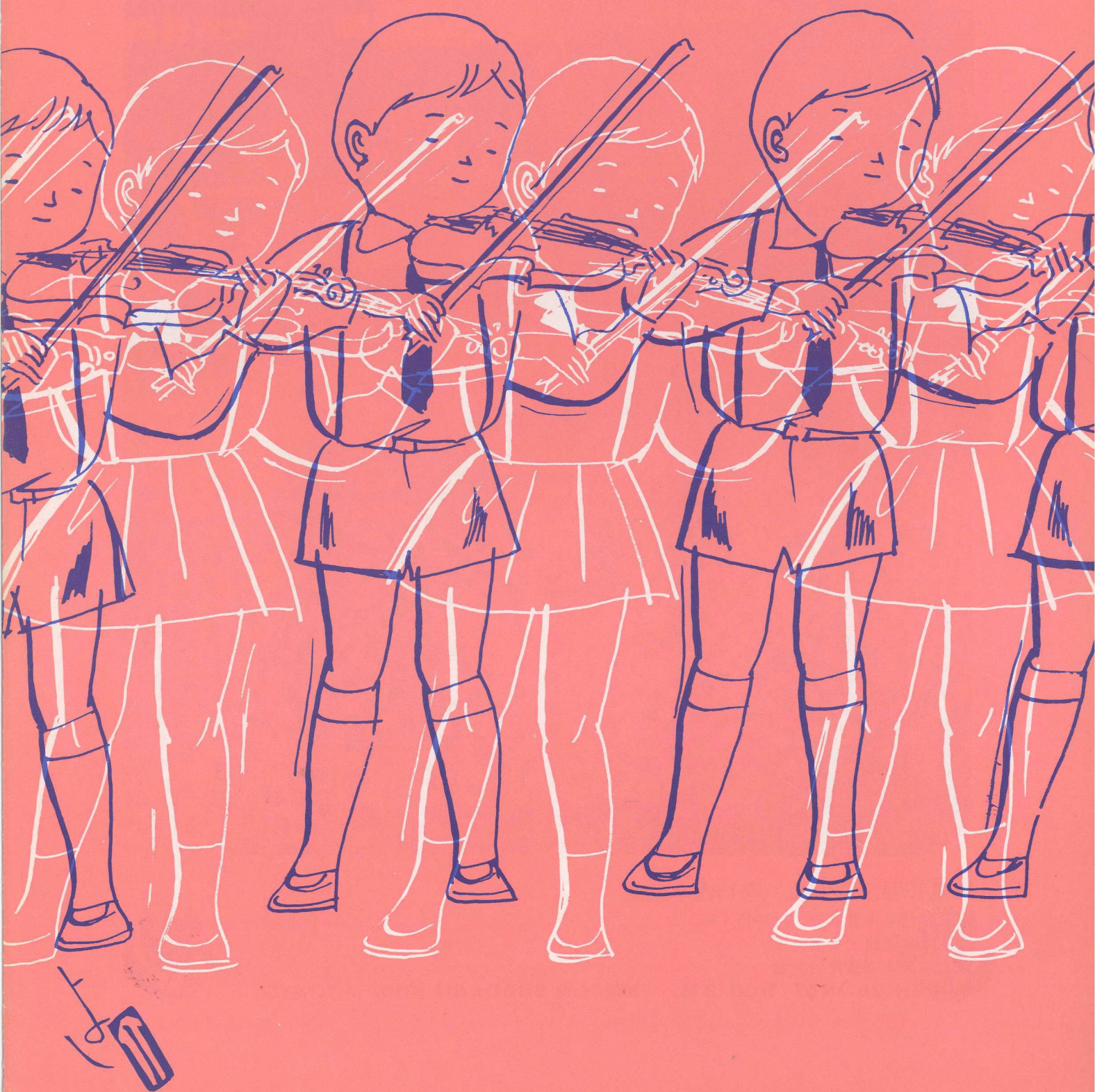
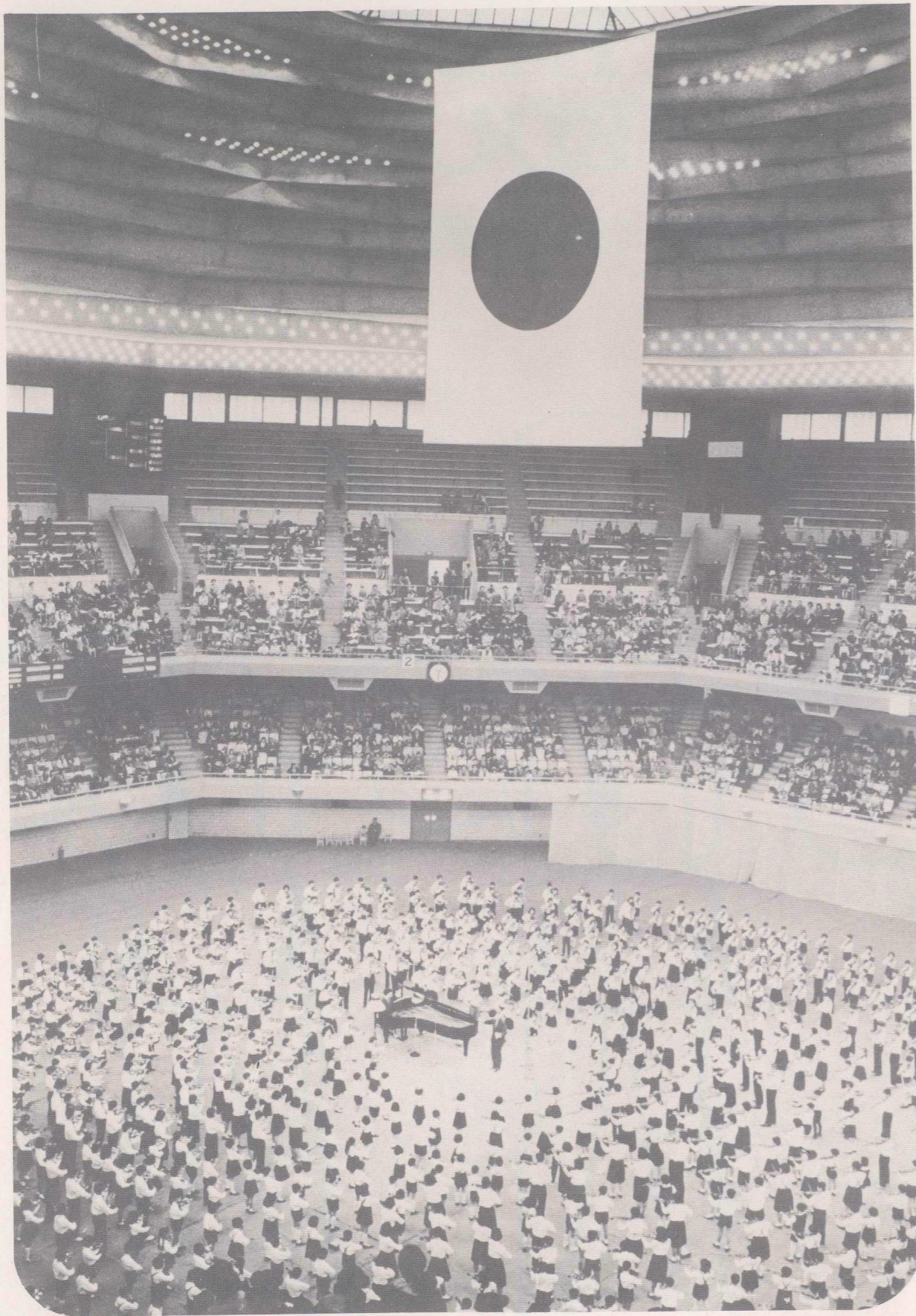


'67

# TALENT EDUCATION

才能教育





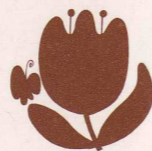
■第13回全国大会＝第15回卒業式

■昭和42年3月26日(日)午後1時

■日本武道館・東京九段

■主催・才能教育研究会

MARCH 26, 1967 1:00 P.M. NIPPON BUDOKAN KUDAN TOKYO



## どの子も育つ 育て方ひとつ

会長＝鈴木鎮一

すでに20年に亘り、私共は、そのような信念と自信の中に、社会に向ってこの実証運動をつづけてきました。今日この事実を眼のあたり見、またその演奏をきいて、皆さまは何をお感じ下さるのでしょうか。

このようなことが始まったことは、とりもなおさず、現代は、新しい時代へ移ろうとする人類の目覚の時代と考えることが出来るのではないのでしょうか。

新しい時代……

それは、即ち人間が人間自身に与えられている高い可能性について気がつき、その可能性を開発してゆく道を拓こうと努力し始めた時代という意味です。

私どもの運動も、その軌道を歩いているわけです。

今迄は、能力が開発されなかった不幸な人間をみて、その姿が生れつきだと考えていた人間社会の常識でした。

然し、今は違います。それは能力が開発されなかったために、能力が発揮出来ない人間にされたのだと、われわれは知ったのです。

教育は生れた日から始まり、人は生後刻々日々、その環境の総てに適應して、人間形成をしてゆくものであるということを知ったのです。

どのベビーでも、毎日、音程はずれの音楽を1曲レコードでかかせて育てれば、皆音痴に育ってゆくのです。それは恰度大阪の子供たちが1人ものこらず、大阪弁のあのデリケートなメロディーの話し方に育ってゆく事実と同様です。

要するに、音楽や文学などの文化的な特定の素質というものは、遺伝として存在せず、生れた後の環境—教育によって育ってゆく能力であることを知ったのです。

私どもの教育法は、母国語の教育法を音楽の能力開発に活用したものです。日本中の子供たちが、どの子も高い能力に育てられている母国語のあの教育法こそ、人間能力開発の最も優れた実例でありましょう。

われわれは人間自身を改めて見直し、ベビーに与えられているすばらしい人間能力開発の可能性への探究と、その能力開発への努力をこれからもつづけて参りたいと思います。



会長＝鈴木鎮一  
PRESIDENT＝MR.S.SUZUKI





## プログラム

開会の辞……………大会委員長 本多正明  
 挨拶……………会長 鈴木鎮一  
 卒業証書授与  
 お祝いの言葉……………名誉会長 徳川義親  
 卒業生の演奏……………ルーレ……………バッハ  
 (卒業生退場)

### セロ合奏

a キラキラ星変奏曲……………鈴木鎮一編  
 b メヌエット……………バッハ  
 c 悲 歌……………デルヴロア

### ヴァイオリン合奏

1 ソナタ ト短調 第一・第二楽章……………エックレス  
 2 協奏曲 イ短調 第一楽章……………バッハ  
 3 アレグロ……………フィオッコ  
 4 カントリーダンス……………ウェーバー  
 5 二つのヴァイオリンの為の協奏曲 第一楽章……………バッハ  
 6 協奏曲 イ短調 第一楽章……………ヴィヴァルディ  
 7 ユーモレスク……………ドボルザーク  
 8 二人のてき弾兵……………シューマン  
 9 ブーレ……………ヘンデル  
 10 メヌエット 第二番……………バッハ  
 11 無窮動……………鈴木鎮一  
 12 むすんで ひらいて……………ドイツ民謡  
 13 こぎつね……………ドイツ民謡  
 14 キラキラ星変奏曲……………鈴木鎮一編

### 全員合唱と合奏

蛍の光……………スコットランド民謡

ピアノ伴奏 鈴木静子  
 片岡治子  
 広瀬悠子

アナウンス 緒方はるみ(フジテレビ)

## PROGRAM



Greeting ……………Chairman M. Honda  
 Address ……………President S. Suzuki  
 Graduation Ceremony  
 Words of Congratulation……………Hon. President Y. Tokugawa  
 Performance by Graduates  
 Loure ……………Bach

### Cello

a Twinkle, twinkle little Star-Variations……………arr. by S. Suzuki  
 b Menuetto……………Bach  
 c Plainte ……………d'Hervelois

### Violin

1 Sonata g min. 1st & 2nd mov. ……………Eccles  
 2 Cocerto a min. 1st mov.……………Bach  
 3 Allegro ……………Fiocco  
 4 Country Dance ……………Weber  
 5 Concerto d min. 1st mov. for Two Violins……………Bach  
 6 Concerto a min. 1st mov.……………Vivaldi  
 7 Humoresque ……………Dvorak  
 8 The two grenadiers ……………Schumann  
 9 Bourre……………Händel  
 10 Menuetto No. 2 ……………Bach  
 11 Perpetuum Mobile ……………S. Suzuki  
 12 Lied……………German Folk Song  
 13 The little fox ……………German Folk Song  
 14 Twinkle, twinkle little Star-Variations ……………arr. by S. Suzuki  
 15 Auld Lang Syne ……………Scotland Folk Song

Piano. Acc. by Mrs. S. Suzuki  
 Mrs. H. Kataoka  
 Mrs. Y. Hirose

Announce by Harumi Ogata (Fuji T.V)

## 曲目解説



### エクレス ソナタ ト短調

エクレスは200年ほど前のイギリスのヴァイオリニストです。12曲のヴァイオリン・ソナタを作りましたが、普通演奏されるのはこの曲だけです。ここでエクレスと同時代のヨーロッパのヴァイオリン音楽界の状況を少しお話ししましょう。当時はいわゆるバロック全盛の時代です。(17世紀後半から18世紀初頭まで)バロックというのは、もともと建築様式の語で、後に続くロココ様式の繊細で、官能的情緒的であるのに対して、意志的、自由奔放な様式と云えましょうか。音楽の面では中世以来の対位法(幾つかの旋律を絡み合わせる作曲手法)を主としてきたものに和声結びついた様式となります。このバロック音楽を代表するのが、近代ヴァイオリン音楽の祖といわれるイタリアのコレリとその一統、ジェミニアーニ、ソミス、ロカテリ、それからコレリのお弟子さんではありませんが、ヴェラチーニ、タルティーニ、ヴィヴァルディといった人たちです。これらの人たちは作曲家であると同時にヴァイオリン演奏の大家でもあったのです。二、三十年後に生れたヘンデルはコレリから、バッハもヴィヴァルディから様式上の影響を受けたといわれます。エクレスにもまたこれらイタリアの大家たちの影響がうかがわれます。この曲もそうであるように、最初にゆるやかな楽章があり、以下、緩一急一緩一急の順になっていますが、これは古い「教会ソナタ」の形式によるもので、ヘンデルのヴァイオリン・ソナタにも見られます。バッハの息子のエマヌエル・バッハによってソナタ形式が開拓されてから、ソナタは第一楽章と終楽章に急速楽章、中間の緩徐楽章や舞曲形式の楽章をもつ次第に規模の大きなものになっていきます。演奏されるのは最初の二つの楽章で、第一楽章は短いけれどもいかにもヴァイオリンの流麗典雅な味わいをたたえ、第二楽章は対照的に潑刺とした活気に満ちています。「クーラント」は古いフランスの舞曲の形式です。

### バッハ 協奏曲 イ短調

ドイツのみならず音楽史上最大の音

楽家ヨハン・セバスティアン・バッハは1685年ドイツ・チューリンゲン州のアイゼナッハに生まれました。在来の音楽を集大成し、後世もその域に迫るものない偉大さはいまでもありません。33才頃からケーテンの宮廷楽長を勤めた5年間、領主のレオポルド大公の宗教的事情から、教会音楽(カンタータとかオラトリオ、ミサなど)の作曲を断念し、専ら器楽曲をつくりました。バッハの夥しい全作品からみれば極く僅かですが、この短い期間にヴァイオリンに関する作品がすべてつくられたのです。ヴァイオリンのための無伴奏の三つのソナタと三つのパルティータは古今を通じてヴァイオリン音楽の最高のものでとされます。ヴァイオリン・ソナタが7曲、独奏ヴァイオリンと弦楽合奏のための協奏曲は、この曲(イ短調)とホ短調の協奏曲、二つの独奏ヴァイオリンをもつ二短調の複協奏曲があります。またセロのための無伴奏組曲(この中から「指導曲集」にルーレその他3曲が加えられています)もこの時期につくられたものです。「組曲」とか「パルティータ」がソナタと違うところは、それを構成する楽章に、「カボット」、「メヌエット」、「サラバンド」、「ジグ」など舞曲形式が自由に用いられていることです。このイ短調の協奏曲はヴィヴァルディの協奏曲の様式を踏襲しているといわれます。全曲は急速な第一楽章、ゆるやかに荘重な第二楽章、快活な第三楽章からなりますが、演奏されるのは第一楽章で、曲首に出る断固として力強い第一主題と、いくつかの新しい主題——哀愁を帯びたもの、リズムカルなものなどが、独奏部と弦楽合奏部を縫いながら進んでいきます。この演奏では独奏部を数百名の斉奏で、弦楽合奏部をピアノが奏します。ピアノの進行を注意してお聴きになれば、主題の絡み合いがおもしろく聴かれます。

### バッハ 複協奏曲 ニ短調

この曲も協奏曲イ短調と同じケーテン時代につくられたものです。これは二つのヴァイオリンの独奏部と弦楽合奏部からなる、ヴィヴァルディの合奏協奏曲(ヴィヴァルディの項参照)の形式によったものです。曲は急速調の

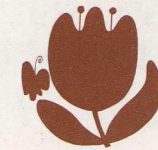
第一、第三楽章と、ゆるやかな歌謡風の第二楽章からなりますが、演奏される第一楽章はフーゲの形式で作られ、構成的には大変難しい音楽です。二つのヴァイオリン独奏部は数百名によって斉奏され、弦楽合奏部はピアノが受けもちます。数年前に来日されたセロの巨匠カザルスがこの演奏を聴いて、涙をたたえて感動され、ついには立上って指揮をとられた光景は忘れることのできないものです。バッハもこのような圧倒的な迫力に満ちた演奏効果は想像できなかったにちがいありません。

### ヴィヴァルディ 協奏曲 イ短調

アントニオ・ヴィヴァルディはバッハ、ヘンデルより10年前にイタリアのヴェネツィアに生れたヴァイオリン奏者であり、作曲家です。若くして僧職に入り、髪が赤かったために、「赤い牧師」といわれたそうです。コレリによって創始された合奏協奏曲の形式の完成者とされています。楽章の構成も、急一緩一急の三楽章に限定し、近代協奏曲の基礎をつくったわけです。バッハに影響を与えたのもこの形式です。合奏協奏曲(Concerto Grosso)というのは、バロック時代に広く行われた協奏曲の演奏形式で、独奏部をコンチェルティーノ(小協奏部)、弦楽合奏部をリビエーノ又はコンチェルト・グロッソ(大協奏部)といいます。コンチェルティーノは一人又は二人のヴァイオリン、或はそれにセロが一人加わることもあります。弦楽合奏部は10名乃至20名で演奏するのが普通です。ヴィヴァルディは多作家で合奏協奏曲40曲、ヴァイオリン協奏曲80曲、オペラ40曲程つくりましたが、現在よく演奏されるのは、「四季」、この曲が含まれるop.3(レストロ・アルモニコ)など、あまり沢山はありません。この曲は本来「合奏協奏曲」で、「ヴァイオリン協奏曲」ではないのですが、ナシエツツというヴァイオリニストがヴァイオリン独奏用に改編したものです。(協奏曲ト短調も同様です)今日の演奏はこの独奏部を約1000名で斉奏するもので、その壮大な迫力は、聴くものを感動に引入れずにはおかないものがあります。これも一つの新しい独特の演奏形式と云えましょうか。(高杉記)

## アメリカに於ける才能教育

### "Talent Education in America"



才能教育がアメリカへ紹介されてから早や10年余になります。これは紐育総領事館の望月謙児氏のためめ努力がケンドール、クック両先生の先覚者を生み、そして今日全米に才能教育ブームを起しました。

第1回全国大会の800名の児童によるバッハのドッベル・コンチェルトのフィルムを見た全米弦楽教育者協会(会員13,000名)の人々は「とても信じられない」と感嘆して、ケンドール、クック先生を始め多くの専門家が遙々日本へ視察に来ました。そしてその結果、全米弦楽教育者協会が中心になって鈴木会長を招へいし、スズキ・メソッドによる幼児のヴァイオリン教育が始まりました。現在各大学では1,000名を超える児童が学んでおり、日本からも才能教育の先生たちが教えに行っております。

この鈴木会長の功績に対し昨年はニューイングランド音楽大学から学位が授与され、また本年はフリント大学(ミシガン)及びルイズビル大学からも学位が贈られることになりました。今年の夏期学校には各大学の音楽の先生たち、150名が大挙して参加するという知らせが届いております。



望月 謙児氏  
(紐育総領事館)



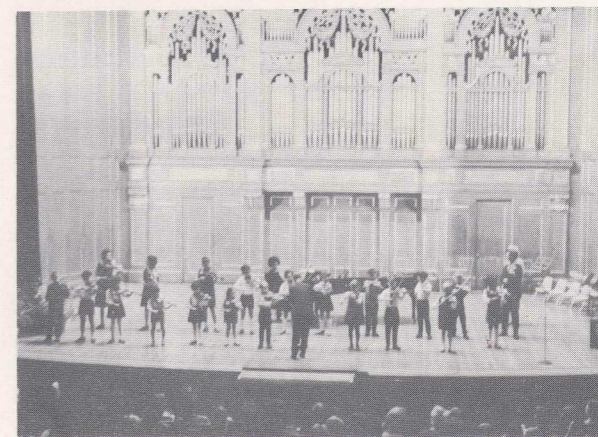
ジョン・ケンドール  
John D. Kendall  
(南イリノイ大学教授)



鈴木会長のレッスン風景  
バルチモア市ビーバデー



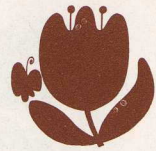
第2次アメリカ演奏旅行へ出発する一行(17名)  
鈴木会長、本多理事、伴奏の末次先生(右端)  
41.9.30羽田空港にて



ニューイングランド音楽大学(ボストン)のジョルダン・ホールで合奏する日・米の児童たち



ハートフォード駅(コネチカット)に出迎えの才能教育の子供たち、テイト先生の指揮の「キラキラ星」の歓迎演奏



第11回全国大会に御出席の  
皇太子殿下、美智子妃殿下、浩宮さま  
40. 3. 27 東京都体育館

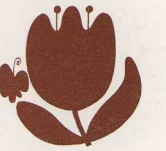
ダヴィッド・オイストラフ (ソ聯・V)

日本に来て多くの音楽友達に会ったが、最少年者は3才の子供であった。それが才能教育のヴァイオリニストなのだ。私は一度だけ200人の子供たちの演奏を聴いたが、ちっぽけなヴァイオリンを見事にあやつって素晴らしいコンサートの雰囲気を盛上げてゆく。年に一度の大会では1,000人の子供の大合奏が聴かれると言うが、私たちが日本を去った後で開かれたため、この盛況を見ることが出来なかったのは、かえすがえすも残念である。 31. 1. 27毎日新聞掲載



アイザック・スターン (米・V)

東京支部の小さな生徒たちと「キラキラ星」を演奏して交歓するスターンさん 40. 12. 6 河合ピアノ・ホールにて

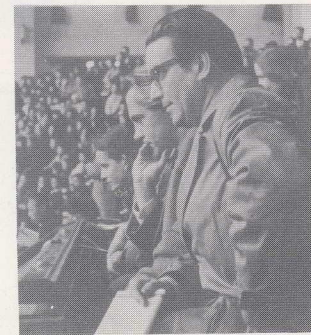


パブロ・カザルス (西・Vc)

大人が、この子供たちのような小さい人のことを考え、高い心と、高貴な行ないで第1歩を始めさせることは何んという素晴らしいことでしょう。そしてその方法なのです。音楽で訓練し、音楽で理解させる……

おそらく世界は音楽によって救われるでしょう。

36. 4. 16 東京・文京公会堂にて



ミュンヒンガーと

シュタットガルト室内楽団 (独)

31. 3. 30 第2回全国大会 (名古屋)



イゴリー・ベズロードニー (ソ聯・V)

あの巨大な東京都体育館が小さなヴァイオリンを持った子供たちでぎっしりと埋めつくされた光景を想像してみたい。然も彼等はバッハ、モーツァルト、ヘンデルなどの真摯な名曲を次々と弾きこなすのである。

そのとてつもない多くの人員によって編成された合奏団は一糸乱れぬ正確さで、しかも音楽的に演奏するのである。恐らくどんな音楽家だって驚きの眼を見張らないではないだろう。

30. 12 祖国への報告書より



ドゥビー・エルリー (仏・V)  
30. 12 松本音楽院にて



左よりレオニード・コーガン (V), 鈴木会長, コーガン夫人,  
ハチャトゥリアン (作曲) 佐藤陽子 (V)



マルコム・サージェント (英・指)  
29. 10. 8 名古屋, 中京支部

才能教育研究会/支部・教室のお問合せは

□本部/長野県松本市旭 2-5-15 Tel 松本 (2) 7 1 7 1

□東京事務所/東京都中野区中野2-23-1ニュー・グリーンビル Tel 東京 (381)2603・(381)9552

□東海事務所/愛知県豊橋市吉田町 1 4 8 Tel 豊橋 (3) 1 2 1 8

### ENTHUSIASM for Suzuki Talent Education is the beginning of a new and remarkable trend in all education . . .

WALTER HENDL

Director, Eastman School of Music, University of Rochester

"All human beings are born with great potentialities." Shinichi Suzuki has said. "We must investigate methods through which all children can develop their talents. In a way, this may be more important than the investigation of atomic power."

*Saino-Kyoiku*—"Talent Education"—is for Suzuki much more than a method for teaching the violin: it is the name he has given to his philosophy concerned with helping every child realize his quite remarkable potential. The basic tenets of that philosophy are these:

1. Every child can be educated;
2. Education begins from the day of birth;
3. If love is deep, much can be accomplished.

Suzuki's love is deep, both for music and for children, and much has already been accomplished. Not all of the thousands of children who have learned to play the violin through *Saino-Kyoiku* are going to be professional musicians (this was never Suzuki's intention), but every one of them has already become thoroughly musical. Every one of them has made music as natural a part of his life as speaking, and in exactly the same way.

There is still some skepticism on the part of some musicians and educators toward a program which enables children to play an instrument before they can read music. As a conductor who has worked a good deal with talented and "gifted" young performers, I can acknowledge wholeheartedly the concept of giving the child a working vocabulary in music before throwing its rules and formalities at him. By playing first, he encounters such elements of performance as expression, tone, inflection, with utter naturalness—just as he does in learning to speak. We do not require children to read words and study grammatical constructions before they learn to speak. And so, too, with music making, in Suzuki's view: *Saino-Kyoiku* is simply a matter of putting first things first.

Notice, as you listen, that these young violinists are not just playing notes—they are making music. Notice, too, that they are happy children, thoroughly enjoying what they are doing and not thinking of themselves as special in any way because of it. They are doing what comes naturally, not because they are born fiddlers, but because they learned to play in the most natural of all learning processes, the one Shinichi Suzuki refers to as the "mother language" approach.

At the Eastman School of Music, following a summer institute under Mr. Suzuki we have just

begun a year of experimentation to determine whether *Saino-Kyoiku* can be as effective with American children as it has been with those in Japan. Mr. Suzuki himself, as master teacher will be with us for three periods of review and evaluation; and teachers trained by him are working with some 100 six-year-olds, drawn from Rochester public schools and Penfield and from our own preparatory department. "Project SUPER" (Suzuki in Penfield, Eastman and Rochester) is partially supported by grants from the New York State Council on the Arts and the National Endowment for the Arts and Humanities. We are hopeful that it will be possible to extend it from the initial one year to a four-year program, not only for violin but possibly for its application to other subjects as well. We consider this project one of our most important undertakings in the realm of music education.

### Mr. Suzuki Receive Honorary Degree Doctor of Music

"Inspired teacher of children, whose vision and dedication have produced a renaissance in the playing of stringed instruments, we express our gratitude for all the happiness and joy you have given the world in the making of music, with this, our highest honor."

These were the words that President Williams spoke just before he conferred the honorary degree, Doctor of Music, upon Shinichi Suzuki at New England Conservatory on June 13. Their meaning became clearer two weeks later after the last session of the Suzuki String Institute, which was held at the Conservatory from June 13 to June 24. The Seminar was a series of master classes and lecture-demonstrations under Dr. Suzuki's direction.

Classes were held in the afternoon and early evenings. The afternoon sessions were devoted to demonstration-teaching of groups and individuals, some of whom were four years of age. The evening sessions dealt with the problems of teaching the "Suzuki Approach" to teachers.

The "Suzuki Approach" is based upon Dr. Suzuki's philosophy of education: "If we think that the ability of children comes from heredity, then a better world is impossible. We know now that every child grows from his environment, and it is only possible to make a better world if we educate our children from birth by giving them the example and feeling of a noble spirit, not only in music, but in all things. If love is deep, much can be accomplished."